

埼玉県羽生市三田ヶ谷平島地区における対称詞選択・被選択規則の言語行動学的考察

吉岡希光

本研究は、埼玉県北東部に位置する羽生市三田ヶ谷平島地区(全戸数9軒, 全住民数28人)における住民相互の対称詞と接続する連体助詞に該当する部分の選択・被選択規則を言語行動学的に明らかにすることを目的とする。調査は、真田信治(1990)『地域言語の社会言語学的研究』(和泉書院)の方法にならい、調査対象者全員を受信者として想定し、回答していただくかたちで実施した。分析は、真田(前掲書)にみられる調査対象住民総当たりの表を作成し、さらに、Ervin-Tripp, S. (1972) 'Sociolinguistic Rules Alteration and Co-Occurrence'. In J. Gumperz, & D. Hymes (Eds.), *Directions in Sociolinguistics*. (Cambridge Basil Blackwell. Scientific Research An Academic Publisher), 藤田勝良(1984)「呼称と述部待遇表現—山口調査にもとづいて—」『国語学』136における変種選択規則分析の方法を参考とし、対称詞と連体助詞部分における選択規則(ある人が、コミュニケーション発信者として自分に以外の全対象住民に対しどのように話しかけているか)と、さらに新たな視点にとりて導入した被選択規則(ある人が、コミュニケーション受信者として自分以外の全対象住民からどのように話しかけられているか)を明らかにし、関わる要因・メカニズムを考察した。さらに、連体助詞該当部分については、藤田尚子(1999)『『コレハ私ノダ。』における『ノ』の性質—北陸方言と共通語の対照方言学的考察—』(齋藤孝滋編『地域言語調査研究法』おうふう)の視点により、バリエーションの成立過程を推定した。